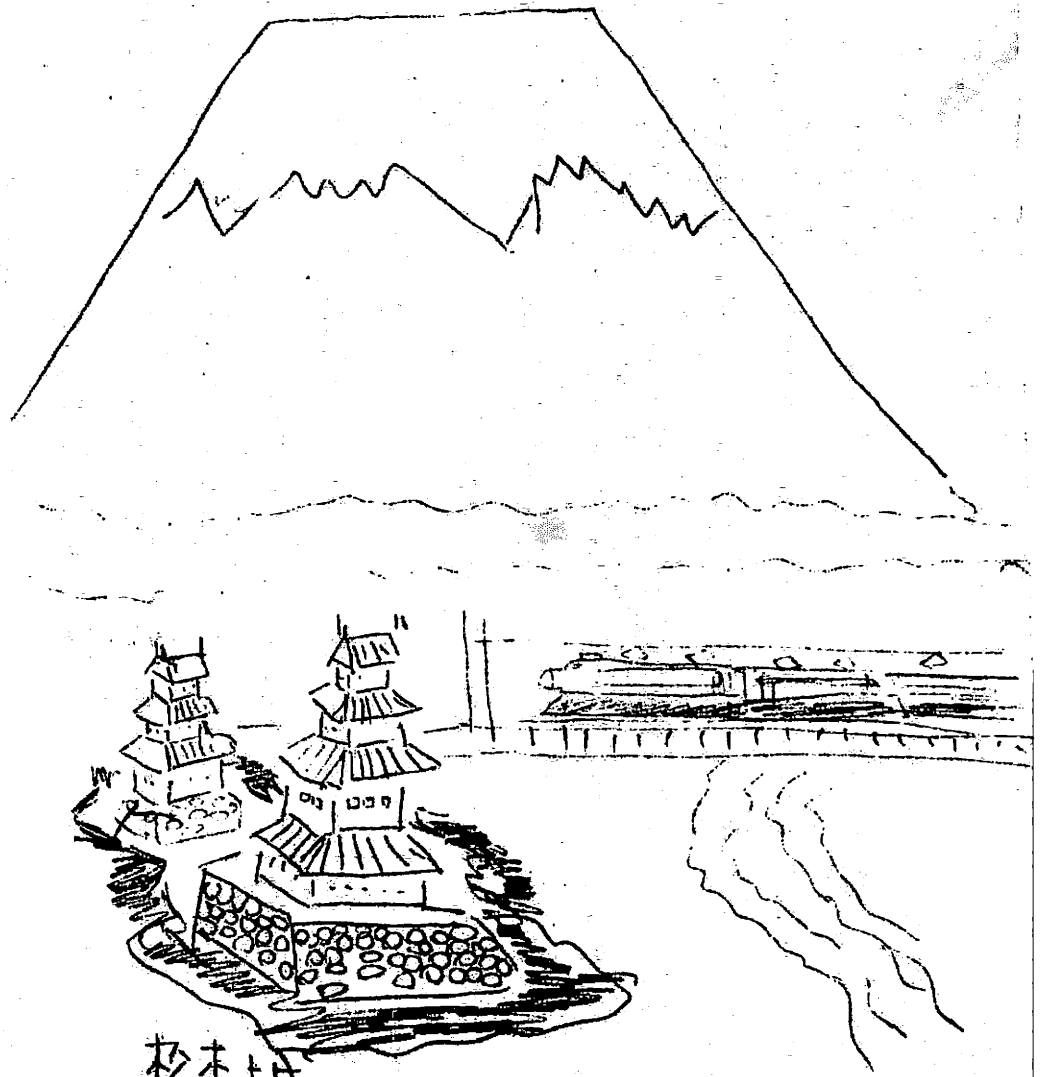


夏山個人山行

信州大学山岳会 S A C



松本城

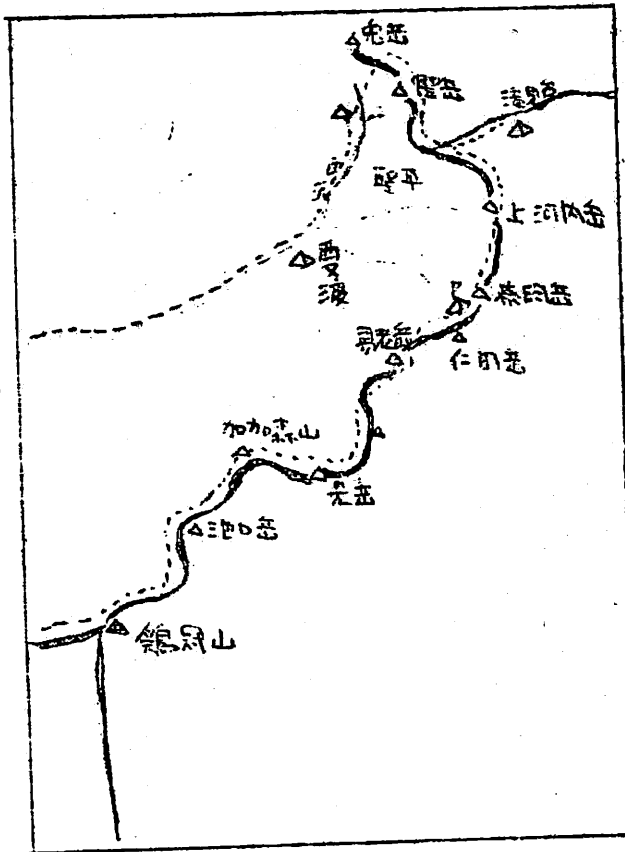
目次

- 南アルプス縦走
- 越後の山
- 薬師縦走
- 後立縦走
- 屏風岩東岩稜ルンゼ"状スラブルート
- 中又白
- シ童谷
- シ童谷
- 屏風岩東壁雲稜ルート
- 屏風岩東壁明島翔ルート
- 屏風岩東稜
- ニ

尚、甲斐駒の沢の報告書は、後日、西に布します。

南下南部、沢と縦走 7/12 ~ 7/20

Xニバー: 竹内秀実、吉岡道泰 岩村孝之、川瀬浩二



7/2 ◎

松本 5:00 平岡駅 10:20

7/3 ①

平岡駅 11:20 松谷口 ~ 西沢渡
林道の長さに南口 30長
20K強.

7/4 ●

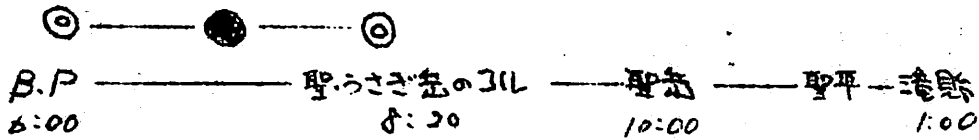
沈殿.

7/5 ◎ — ① — ◎

西沢朝行 7:00 — 2100 M 地点 2:00

最初一本までは川原の積石だだったが、5m程の滝を越すと、
両側の壁が狭く、降りつる感じで小さな滝の連続となり、二本目
の休みの後には5m、10m位の滝が連続しておもしろくなる。
また岩調の川原となり、途中左に20m程の曲りこめた滝が
あり、この地点を二俣地点かと思ったが、そうではなかった。1:00
二俣地点に着き、二俣の前で10m、10m、5mの連続する滝で
か化を3ヶ所越す。水は全身にまみれ、二命たっこと二命たっこと、
二俣から左俣に入り、20分程登ると広い河原となり左岸に
寝床を張る。この時20分程に雨が降る。夜中は星がみえていた。

7/16



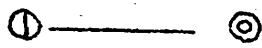
最初一時間は、川原の締まり感だった。但し傾斜が強くなってくる。そのうち水量が極度に減り分岐点が多くなり、岩も多し。分岐を左に左にコースをとってつめていく。落石が多く、ファットした事で、事故が起きそうで恐かった。

2時間30分程で稜線に出た。コルより少し左によつた稜線上にてたが、ガスの間から南アの山々が見え、音空もみえた。

縦走路をたどって聖岳 ~ 聖平へと歩いたところで雨となる。滝見台に着いた時には強風を伴い、ツェル人もかぶる。

竹内、吉岡は滝沢の偵察に出る。台見台からは前方に聖岳を仰ぐ 2200M 位の場所を真下で大滝が落ちてゐるのが見られた。

7/17



滝見台 — 上河内岳 — 茶臼岳 — 仁田池小屋

夜中、岩村が体調をくまし、熱が出る。その為出発が遅れた。

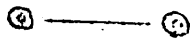
その為当初の計画であった聖岳滝沢の溯行を変更し、仁田池小屋までの縦走となる。8:30分出発。仁田池小屋には人もいなかった。

雨にはあきらむかたが終始ガスに視界をさえぎられていたのは残念。

7/18

池原 3:11 風、3:11 雨だった。

7/19



仁田池 — 烏老岳 — 光岳 — 加加森山 — 池原 — 鷲冠山 — B.P

光岳までの縦走路はあまり存んなく感じ。加加森山 ~ 鷲冠山までは思ふより道が良かった様に思う。人の多かりな道に足踏をかけるのも悪くない気分。鷲冠山から西に送る尾根を下る。なかなかに道が広く、途中で沢(左の沢)に下りツェル人も張る。

7/20

① B.P — 和田 — バス — 平岡馬尾

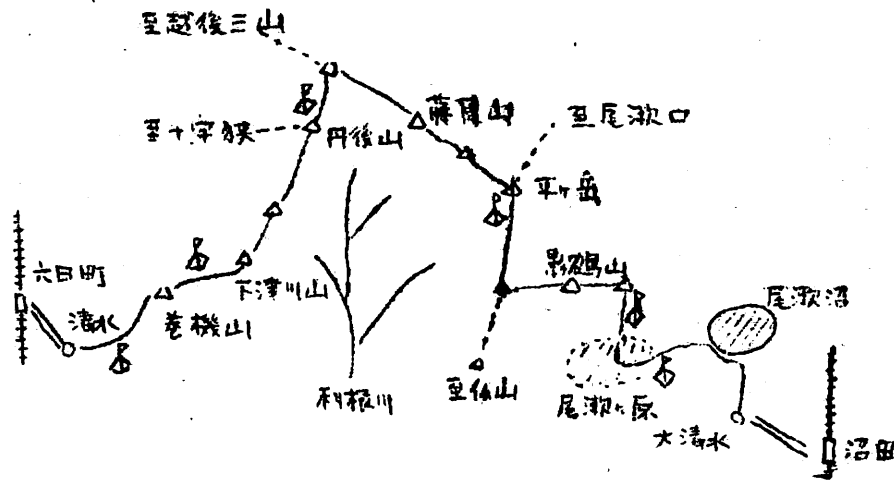
沢を川に下る。途中アツゾサイルニ1ヶ所。左右から大きな滝がながれ、大きな南アの山をかは見た気がした。

(記岩村)

越後の山縦走

4月14日～21日

Member. Leader 石渡 健司 (S2-II)
 Essen 川原 修 (A2-II)
 装備 藤井 卓也 (S1-I)
 会計 渉外 保科 憲 (S1-I)



1日 松本 六日町 → 清水 ①5:30 — 二俣 ②17:30
 沢治りに登り、美しい夕景を堪能。天狗岩手前の二俣で幕営。

2日 T.S. ①5:00 — 平ヶ岳 ②7:00
 雨のため雪渓をさけ、尾根の尾根へ上ろうとしたが、すこまじいブッシュで進むことができない。しかも雨もひどくなってきたので尾根への斜面上でビバーク。水はくまなく、いざでまとまる。

3日 B.P. ①5:00 — 平ヶ岳 (巻機山) ②8:00 — 小倉山 ③2:00
 登山靴をはき、雪渓を1時間程進んだ所へベニキ印。そこより巻機山へは果敢に登り始めた。そこより主稜線へはガスのため、道が非常に陋りにくい。(谷川岳のオへ行て(帰った)30分程進んだ所を左の尾根へ降り、その三角点の手前20mを避難所を目指して下るとわずかながら踏跡有り。トトボの次のピークは直進してはいけなく、直角に左へ下らなければならぬ。これより二重山稜が現われる。(向かって右に行く)幕営は小倉山直下。水はすれ沢。

お4日 T.S. 〇5:00 — 越後沢山 〇9:30 — 丹後山 〇12:00

今日終日晴天で越後の山々が一望できる。尾瀬はほろろかきかきである。本谷山、越後沢山の登りは楽だが、越後沢山の下りからはすさまじいブッシュ。ここは、できるだけ驂馬根側によれば少しは楽そうである。天端ではゆくりと屋敷をしてくつろぐ。水は雪渓。

お5日 T.S. 〇6:30 — 藤原山 〇9:30 — 車岳 〇3:30 —

直下の湿原 〇5:00

月日はガスで出発が遅れた。ジャンクシヨンより、主稜線への道は解りにくく、わずかにガスが晴れたのでようやく進めた。(ジャンクシヨンの北の端より) 藤原山までのブッシュはひどいがそれ以後は比較的楽になる。

お6日 T.S. 〇6:00 — 景観山 〇14:30 — 与作岳 〇16:30

— 景観尾根上部 〇19:00

ジャンクシヨンまでは踏跡が少し残ったものの、以後完全になくなる。虫とブッシュに悩まされるが与作岳と着いた。尾瀬はもう足元と見えていたのだが、これが最大のヤマゴトであった。ブッシュと流され沢を出たので下陸すると滝と出合い、再度尾根と取り付く。今日は水も無いビバークとなった。

お7日 B.P. 〇4:30 — 尾瀬原 〇14:10 — 十字路 〇15:00

すさまじいブッシュの上、尾根が広いのでオ向感が全く無く、軽装で与作岳直下まで登り、多くの木に登りながら尾瀬へ下りた。わずかに5km程の尾根に実は12時間以上も要した。それだけに尾瀬では感懐を受けた。

お8日 T.S. — 大清水 — 沼田(南散)

一週間に及ぶの中、もうブッシュはなく、下山。

おわりに。

アルプスに匹敵する景観、スケールを持った山域ながら、誰一人にも出合わずにたのたのが不思議である。それだけに踏跡は薄く、教多く道を失ったことがある。しかし、時折ぽかりと現われる湿原は楽園とも言えるすばらしいものであった。この山行は、言うならば天国と地獄の連続であったのではまいいか。

薬師岳 縦走

- ・メンバー L.田淵, 佐々木, 茂呂, 木下, 田辺, 関
- ・入山期間 7/15 ~ 7/21
- ・行動記録

★ 7/15(日) ◎/◎

松本駅 — 大町駅 — 扇沢 — 大沢小屋
5:20 6:20 7:15 8:15

— 針ノ木峠(設営) — 針ノ木岳 — 針ノ木峠
10:50 13:00 14:00

- ・集合時間がルーズだった。反省。
- ・針ノ木ヒストンの際、夏道をはずれて尾根を歩いてしまった。

★ 7/16(月) ◎/①

針ノ木峠 — 黒部湖舟付場 — 平小屋
4:00 8:45 10:40

— 五色ヶ原
14:20

- ・針ノ木谷は水量が多く、渡渉にかなり苦労した。
- ・田淵、軽んでうでを木にひっかけ肩を脱臼したが、木下がうまくはめて治った。

★ 7/17(火) ◎/①

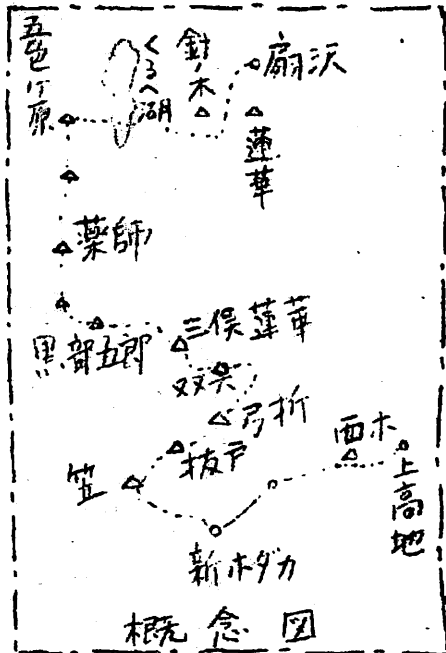
五色ヶ原 — スゴ小屋 — 薬師岳 — 薬師峠
5:00 10:20 15:00 16:40

- ・この日の行程は長かったので、翌日双六池まで行く予定を変更して、五郎平に泊ることにする。

★ 7/18(水) ◎

薬師峠 — 北ノ俣岳 — 黒部五郎岳 — 黒部五郎小屋
5:40 7:20 10:40 13:00

- ・風が強かったので、テントが飛ばされそうだった。ペグを使用。



☆ 7/19 (木) ①/◎

黒部五郎小屋 — 三俣蓮華岳 — 双六池 — 弓折岳
4:30 7:00 8:40 10:10

— 秩父平 — 笠ヶ岳 テン場
12:10 15:00

・テン場は水くみが楽じゃない。

☆ 7/20 (金) ① → ◎

笠ヶ岳 — 雷鳥岩 — 槍見温泉 — 新穂高温泉
6:50 8:20 12:30 13:30

・笠ヶ岳頂上付近は岩がもろく、落石・浮石注意。

☆ 7/21 (土) ①

新穂高温泉 — 西穂山荘 — ウェストン碑
6:00 7:45 10:00

— サマ天
13:20

- ・D-アウェイを利用了。
- ・西穂の下りでは登山者が多く、下りにくかった。
- ・サマ天で先輩にゴミキをやらされた。

感想

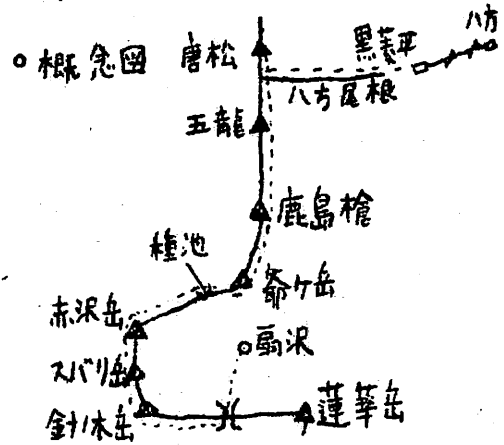
- ・一年生ばかりの山行だったが、天気にも恵まれて、楽しい山行だった。
- ・各自、軽量化に努めたので楽だった。
- ・予定変更は適切な処置だと思う。
- ・一年生ばかりだと、ルーズになる面もあるのは、やむを得ないことだと思ったが、やはり、先輩が居た方がよいのではないだろうか。

by 田淵, 関

後立縦走

○日程 7月26日～7月29日

○メンバー (4) 茂呂晃
木下善夫
岩村孝文
川淵浩二
田辺 治



○行動
26日 ① 松本 5:14 → 白馬駅 7:00 → 八方 8:30 → 黒菱平 8:30 → 唐松岳 12:10 → 五龍小屋 4:00

ま、たく夏山らしい天気の良い日でした。

5人パーティーのうち3人が薬師の縦走にいらしてまたの
で、いいかげん縦走にうんざりして、情性で登っ
ているようだった。それが全員に影響して、軟弱な雰囲気
に満ちていった。五龍小屋では天場が満員で張れなく
て、しかたがないから素泊りした。8400円の出費。

27日 ② 五龍小屋 5:15 → 五龍岳 6:00 → キレット 9:30 → 鹿島槍 11:45 → 冷池 1:00 → 爺ヶ岳 2:40 → 種池 3:25

キレットの下りで、固定されているはずのハシゴが、ガ
ラリと動いて、キモをひやした。途中、2.3回ガスが

●おれ、剣岳が見えました。

28日◎→● T.S. — 岩小屋沢岳 — スバリ岳 — 針ノ木岳 — 針ノ木峠
5:50 11:00 1:00

恐ろしい一日でした。すさまじい暴風雨におとられました。
赤沢岳付近で雷に驚い、稜線を5mほどおりの所で1時間
以上やりすごした。さいわい雷雲は500mほど北にあり、
目の前に落ちることはなかったけど、こわかった。やっこの
思いで、針ノ木峠についてテントを張った。2人用ドーム
テントに5人はいるので、身動きするのもおろしかた
た。4時10分ごろ、ちょうど炊事中で湯がわいていた。
夕マネギをいれようとした時、突然ナゲがひっくり返
た。悲鳴をあげて、とびあがる岩村。おにジャージをめぐ
と、ペロリと皮がはがれた。雪溪の雪でひやしたか、
もはや縦走をつづけられる状態ではなかった。

暴風雨をくぐりぬけたあとで気がゆるんでいて、だれ
もナゲをおさえていなかったことを返自しなくてはなら
ない。ちょうどした気のゆるみか、事をまねくことを
思い知らされた。

29日◎→◎ T.S. — 針ノ木山荘 — 扇沢 — 松本
9:00 11:20 1:50 3:00

1時半で扇沢に下山。夕マネで部屋にもどり、岩村は信大
病院に行った。

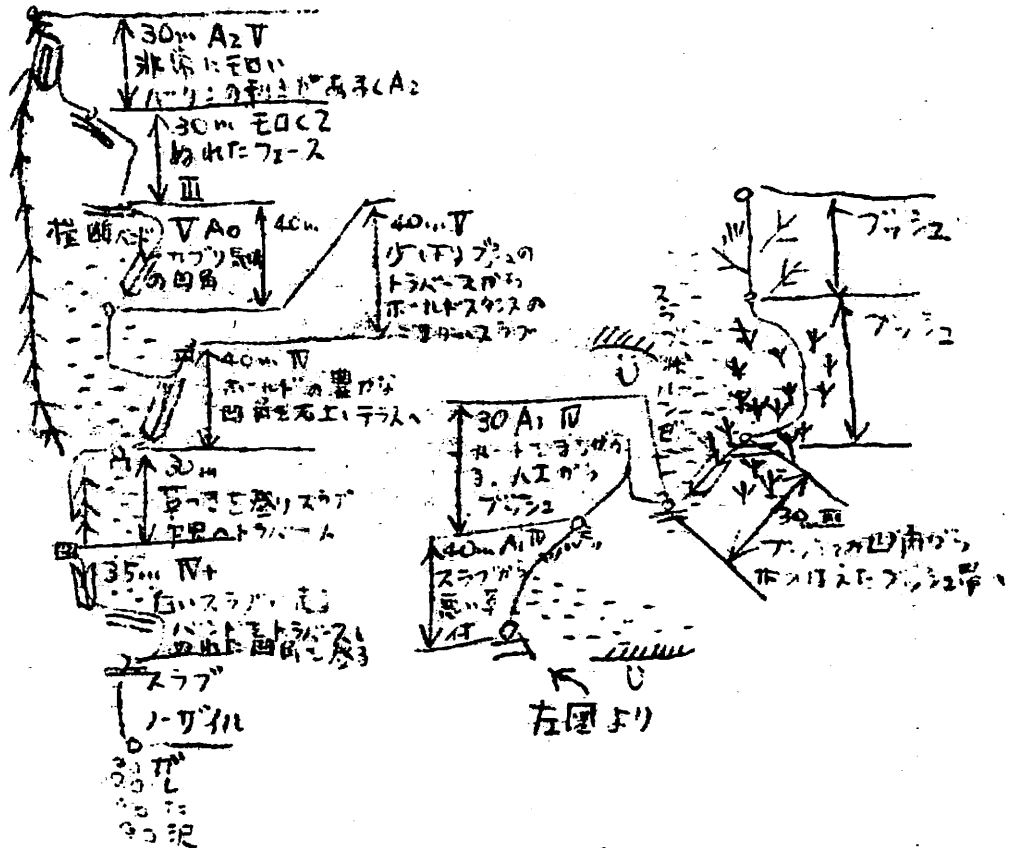
屏風岩右岩稜ルビ状スラブルト登攀

○ L 山本章, 山本雅大 天気①

○ 行動概要

○ ST(20) - 取付(8:40) - 終了(15:10) - ST帰天(19:40)

○ ルート図



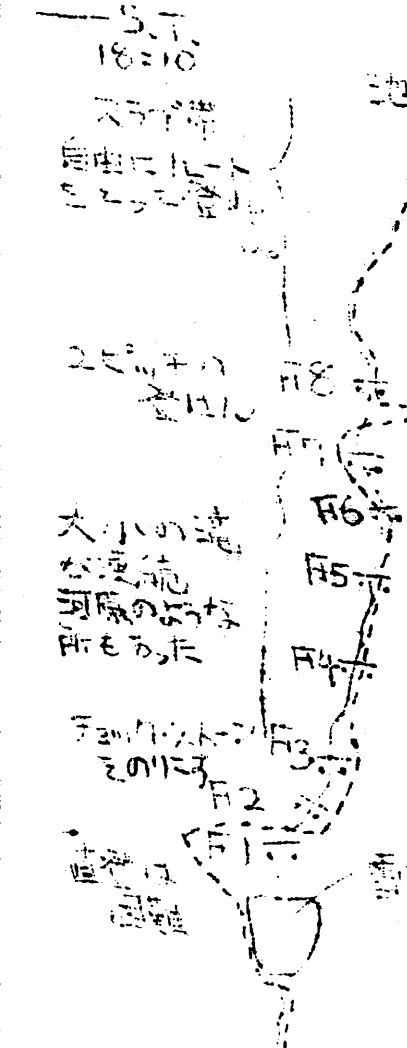
○ 感想 下部はわりと快適だったが上部は岩がもろく、ハーケンも利いていけなかったのが精神的疲労が大きかった。全体を思えばそんなに下アケリ所はなかったがやはりポイントにはエロイ系の処理と草の処理であらう。下降ルートは、いぼらく片足で屋根を下り、トラバースに3回入って入りアツク3回降り着いた。上部が快適だったら好ルートになるであらうが、もう一度と行く気がせん。 女一おとろしかった。

記 山本(雅)

中又白谷 8/8 ①

メンバー：山本雅夫 (S-I-II), 岡部 潔 (A-I-I)

S.T. 8:10 — 徳沢 9:30 — F1 10:30 — F8 13:00 — 奥又の池 14:00 — 徳沢 16:50



徳沢から新村橋まで、この右の奥又へ入り登山道へ入らなければならぬ。左にも登山道へ入る。この中又白谷の出口である。登山道の中を進むと30分ぐらいでF1に出る。

大きなトコにたどり着く。見通しの左の山頂をたどると左の湖のそばに少し登る。湖のそばにたどり着く。ここから右へ入る。入るとF1の登山道になる。30分ほど進むとF1に出る。右から登るとF1の登山道へ入る。F1の登山道はボロボロの本道であり、ここにシリングが落ちて登る。これはザイルを使った。ボロボロとぼろぼろのシリングを回収することになった。F1からはそれほど難しくない。道もそれほど有難くない。谷は川で木と木と見通しがきく。そのため、F1はザイルを必要とする。今の登山道とは違って、暗い大きな滝である。1P目は滝の右手上の深い淵状のところからスタート。2P目は木流のそばから右を直上。茶臼口近くはかぶり気味で、岩もボロボロのやな所であった。

F8からは流石に道もなく、快適なツメであった。奥又の池に到着し、遠くに見える龍種のアースをながめているとヤレヤレという感じになった。短い谷ではあったが内容は充実していたと思う。

松尾尾根を下る。途中お墓参り、新人合宿を思い出した。(田端)

・滝谷

・加藤 吉岡

8/9 ~ 8/11

4尾根 1尾根 P27ラテ

8/9 ①

前日加藤は屏風に行き夜中に帰ってきたため本来の計画
中又～喫又～滝谷はヤメ 廻沢→滝谷へとした
今日は廻沢と STで昼メシと食べ11時 ST 発
16:00 廻沢 ツェルトと張り就寝

(吉岡記)

8/10

①

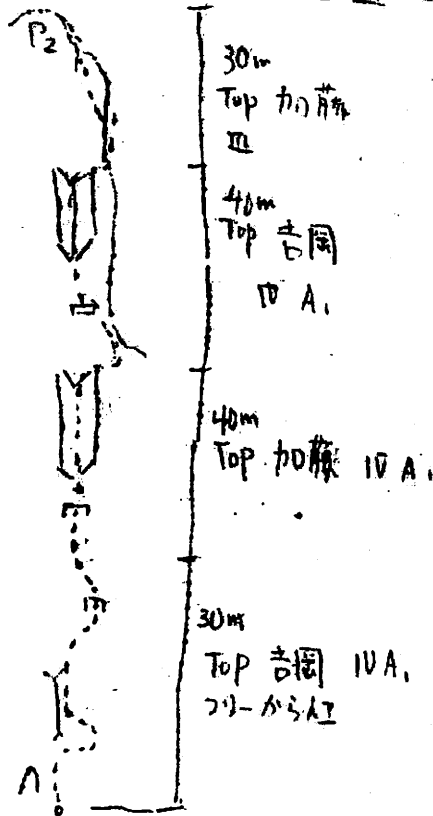
5:00 廻沢を北徳南橋ラテスにいらぬ荷物とツェルト
にかぶせC沢左俣を下る。途中2人の組に会い落石か危
いとのことで一歩に下る 4尾根取付 9:00. 加藤 廻沢
をつらへ式で登る。1尾根と2尾根石の取付 4時
1尾根へのバンドのトラバース中は加藤 大落石を避ける
人はいたが。1尾根の石を保はアブミ石釘果 2尾根の石
は、細いシリングを2つ用いる

6:00 ストールと探したがわからず結局上部は
ノーマルルートに登る。終る 17:00. 南橋ラテスに戻る。

(吉岡記)



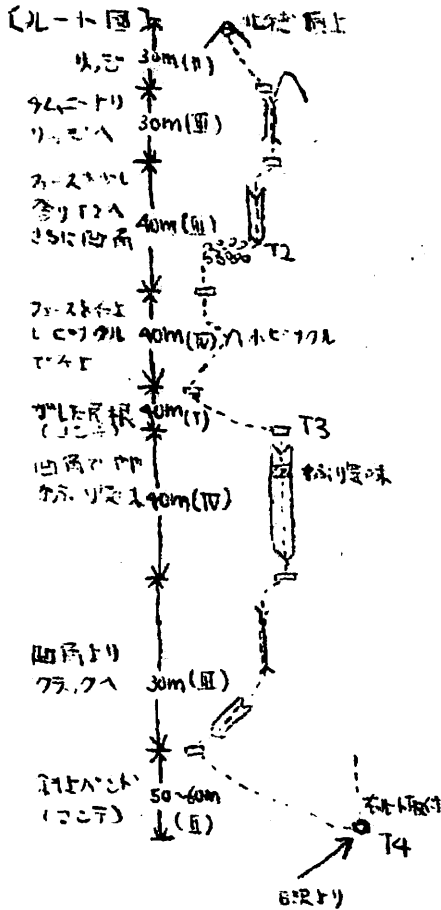
8/11 ① 6:00 BS発. B沢を下ってP2フラックの取付へ
 1P目 フリー～人工 途中チョックストーンにかかっていた古いシェリンゲを人工で壊ったことが原因
 また最後のピッチをルートより左側にP2を巻いてしまったことでも。
 それから水野フラックを通って帰った (吉岡)



滝谷登攀

○ I 尾根ノーマルルート

- 8月15日 天気: ① (か)
- (L) 山本 雅大 = TOP, 保科 実 = SECOND, 藤井 尚也 = LAST
- S.T. → 洞沢 → 北徳峠 → 北徳 → 下凡根 → 高段テラス
- 受付 = 16:00 下山 = 18:30 (2時間30分)



(感想)

- ルートがレドはとうていIV下
けないうる気味した。
- 川原を歩かされた。岩の中を登
攀するのは人ごいのので、時間を
をあくせと駆け抜けたので、少し
くたくたであった。

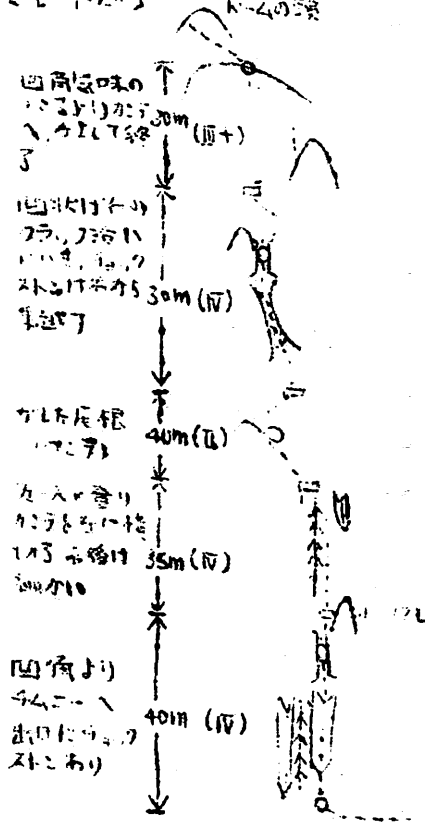
※ 山頂のラウドは北徳峠に下る

by Hoshina

ドーム中央稜ルート

- ・ 8月16日 天気：①
- ・ 山本 雄太 - ICE, 岩井 守平 → SECOND, 高村 寛 - LAST
- ・ T.S. → ドーム中央稜 → T.S. → 北穂高稜 → 岩峰 → S.T.
- ・ 取付 = 6:45 下山 = 10:40 (2時間15分)

【ルート図】



(感想)

- ・ どう見てもルートが「ド」の
 二重のりもりな感じかし
 いた。
- ・ 1Pech目の5L、付ネカは5
 付ネカの方が楽である。
- ・ 岩峰は比較的早く、快進であ
 った。

* 図のピッチゲルトは記号断にお

by Hoshina

屏風岩東壁雲陵ル-ト登攀

・L 山本雅大, 加藤喜章

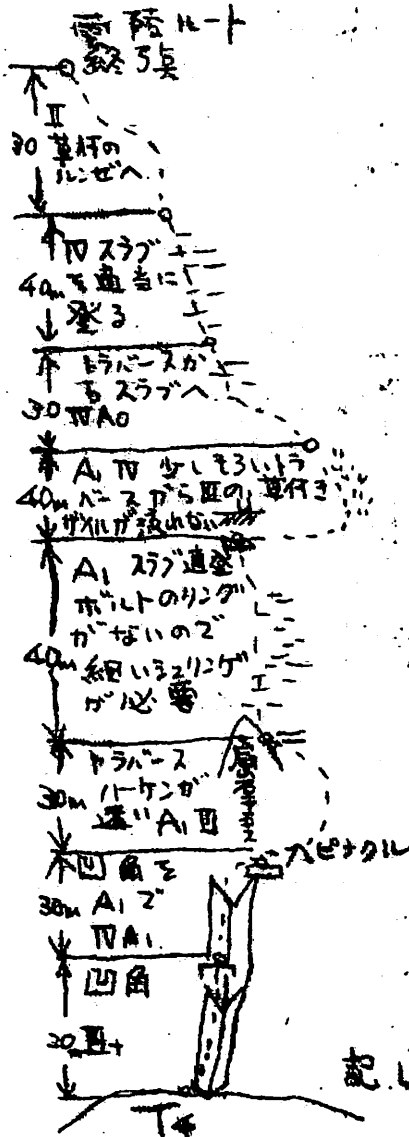
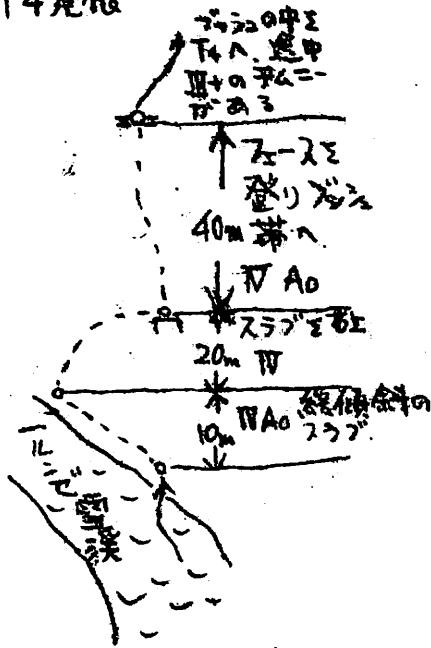
・8月22日 実働1日 天気 ①→②→③→④

・コース, 時間

ST (5:00) - T4尾根取付 (8:00) - 終了点 (4:00) - 屏風の頭 (4:40) -
 - 赤ガリ-下降 - ST (2回 4:30)

ルート図

T4尾根



⑥ ハーケン, ホルトは利いといはるが、ホルトはリングが甘いものが多いので細いリングと、ナイフを持って行かなければならない。夏になって初めの2の岩登りであったので、削りておらず、どのピッチも17:00上のような気がした。夏のピッチグレードは私が覚悟したものである。

屏風岩東壁鵬翔ルート登攀

- L 山本雅夫, 片山博彦
- 期日 8月13日 天気 ① → ②
- 行動概要
ST(4:00) - 東壁ルンセ下部取付(7:40) - 鵬翔ルート終了(15:10)
- パノラマ新道よりSTへ ST着(18:00±3)



ルート図



② 東壁ルンセ下部は気持のよいスラップがあった。鵬翔のボルトは打ちやすなものばかりなので予備を忘れないようにしなけれはならない。赤い前傾フェースがバカでかい。本打ちなおい。

★ T4へ着いた時、東壁ルンセ上部(登攀ルート)で落ちた人の救助を行なった。悲劇。そのとき、みんな岩を登る時にはあくまでも慎重に。水から岩には十分行なうこと取り付くようにしよう!!



記山本

○屏風岩東稜

L.下田 加藤 川原

8/6 6:00 5:45 9:30 10:30 12:30 18:30 1:15
S.T — T4尾根取付 — T2 — 3 pitch目 — S.T

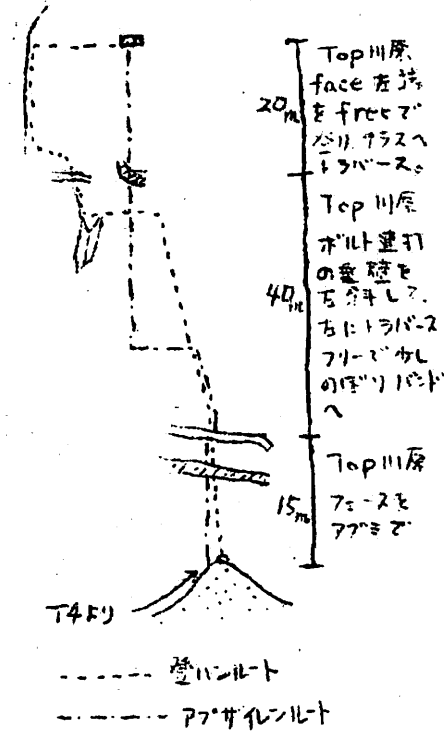
ひさしに空が広がった。予定より1日遅れで出発する。当初の予定では、2 partyで登ることになっていたが、山本の足の故障のためいきなり3人 partyで登ることになる。出発が遅かったため、予想はしていたがT4尾根の取付から荷をさいてしまった。暑さにもまいった。T2にもやはり先行 partyで、結局2時間も待たされた。

1 pitch目は●小リングのある face をバインドまで登る。2 pitch目、ホルトに従って左へ斜土ぎみに30m程登り左へトラバース。ケル直上してバインドへ出る。ホルト間隔は概して広くなるが、確歩点から最初のホルトへ行くのが少しいやしかった。3 pitch目は一見簡単そうな free の face に見えたが、ルートを取り違えたのが、ずいぶん遠回りだった。face の左端を直上し、右の幅の狭いテラスへトラバースする。ここまで3人が登り切ったのが18:30。先行 partyはまたすぐ上を登っており、ここ以上はもう脱ける前に暗くなってしまったと判断して、アアサイレンで降ることにする。サイレンを2本つないで、1 pitch目のテラスまで降りた。途中サイレンが足りなくなり、アアミ下降をしたが、ルートが左へ

斜土ぎみなので、フリコトラバースがルートへもどった。アアミで降りたため、予想以上に時間をくってしまい、T2へついた時には完全に夜になっていた。しかし、幸い月が明るくT4尾根の下降をさしほぐすことができはなかった。アアサイレンはT2までには40m~15m、T4尾根まで20m~15m、T4尾根まで40m~40mの6 pitch 使った。素晴らしい程の月明りの中、S.Tに降りついたのは次の日だった。

この山行を終えて、最後まで登りたかった事は残念だったが、さうでも、フリコトラバースやアアミ下降、夜間のアアサイレンなど、ふつらに登ったのでは味わえない経験とすることができ、多山に比べて有意義な山行だったと思う。と同時にこういう状況の場合、練習も岩トレでやっておく必要があるのではないかと考えた。

(文責 川原)



。屏風岩東稜

L. 下田章 (A-4-7)

石島三歩 (OB 51号車)

8/16 S.T — 横尾 — 屏風岩東稜 登パン — 最低コレー
5:10 7:00 16:00
— パノラマ新道 — 後沢 — S.T
17:00

事前にL会に提出していたが二人とも遠征へ行くのに
seilを組んだことがあまりないということだったのでS.Tに
L会をしてもらい許可してもらった。

東稜は2回半目だったので取り付きルト等は向違えなかった。
しかし、1週間前に登った時よりやさしく感じられた(特に3pitch
目のIVのfreeなどは)。二人とも運動靴、テフエイダーで登った
がとてお勧めできない。人工はやはり運動ぐつがは疲れる
と思いました。

天気は良く快適に(時間はかかったが)登山しました。

(下田)

サマーテントよりの山行

7月24日(火)
川、山本雅大、藤井卓也 奥又、松高ルンゼ～北壁A Face
～前穂～岳沢

7月30日(木)①
加藤彦章、歌の会の先生たち 西穂高

8月1日(水)①
保科美、タンポポの人達 徳沢園

8月2日(木)
関圭三、高校のクラブの後輩 酒沢 奥ホ、前ホ

8月9日(火)○
川、近藤幸夫、木下吾夫、天呂晃、西穂高
田辺治

8月10日(金)○
下田章、伊藤、鈴木 西穂高面

8月11日(土)
川、田辺治、山本雅大、伊部 槍ヶ岳

8月13日(月)①
川、吉岡道泰、関圭三、川瀬浩二 松高ルンゼを間違ひ、本谷朔行

8月14日(火)①
川、加藤彦章、関圭三、川瀬浩二 松高ルンゼ～北壁A Face
片山博彦、三坂弘、吉岡道泰 又白谷

8月15日(水)○
関圭三、東京家政学院の女子3人、西穂高
下田章、福高(OB) 南壁ルンゼ

8月16日(木)
C. 下田章, 福島(UB)

屏風岩、東稜

